

企画展

舞



楽



平成 24 (2012) 年 5 月 2 日 (水) まで開催

國學院大學伝統文化リサーチセンター資料館

東京都渋谷区東四丁目 10 番 28 号

<http://www.kokugakuin.ac.jp/oard/>



舞楽

平成 24 (2012) 年 3 月 5 日 (月) ～5 月 2 日 (水) ※日曜・祝日と 5 月 1 日 (火) は休館

主催 國學院大學研究開発推進機構

展示のねらい

日本の芸能の中でも、舞楽はひときわ古い歴史があります。神社の祭礼においても、日本古来の歌舞に加えて、貴族社会で培われた舞楽が演じられました。すなわち、神社は舞楽の維持の一翼を担っていたことにもなります。今回の企画展は、この舞楽の装束や楽器を展示することで、来館者各位に、舞楽の一端に接していただくことをねらいとします。

展示の要点

○舞楽が今に伝わる理由

舞楽とは、一般的には雅楽における舞と音楽との複合芸術のことを指します。現在目にすることのできる舞楽は、平安時代前期 (9 世紀) に、それまで国内外で作られてきた楽曲をもとに整えられたものです。以後、これが貴族社会に定着し、朝廷の儀式や、神社祭礼や寺院法会で演じられました。幾多の困難を乗り越え維持されてきた、これら儀式などの存在したことが、舞楽継承が果たされた理由のひとつといえます。

◆展示品

昭和御大典絵巻 (復刻版) 卷子本 1 軸 紙本着色 昭和 53 (1978) 年 神道文化会刊 國學院大學神道資料館
『昭和聖帝御即位大典画史』(国際情報社、昭和 3 (1928) 年) の復刻本です。昭和天皇御大典の主要な場面を描いた絵巻の複製と、尾上八郎の歌などで構成されます。昭和 3 年齋行の大嘗祭の後に舞われた^{ごせちのまい}五節舞や^{まんざいらく}万歳楽の絵が載録されています。前者は吉村忠夫、後者は吉村の師に当たる松岡映丘によります。

年中行事絵巻 卷子本 1 軸 紙本着色 制作年代未詳 國學院大學神道資料館

京の夏の疫病除けを旨とする^{ぎおんごりょうえ}祇園御霊会 (現在は祇園祭という) を描いた絵巻です。原画は院政期成立とされます。京中を巡る神輿の行列の中には、鉾を持ち^{りょうとう}襦袢を着した人物が描かれています。この出で立ちからは、舞楽の一祖型・^{ぎがく}伎楽を淵源とし、^{ざるたひこのおおかみ}猿田彦大神に変化するとされる^{おう}王の舞や、舞楽の^{さんじゆ}散手を想像することができます。

□参考

※五節舞：天皇一代一度の祭祀として、即位後におこなわれる大嘗祭は、米の新穀をはじめとした収穫物を神々に捧げる重要な祭祀です。このまつりの終了後におこなわれる饗宴を^{たつのひのせちえ}辰日節会、あるいは即位大饗^{たいきょう}といいますが、この時に舞われたのが、農耕の繁栄を願う五節舞です。五節舞は舞楽の中では^{くにぶり}国風の歌舞に系統づけられる、^{おおうた}大歌の一曲として位置付けられます。大嘗祭の時は 5 人で舞いますが、この舞人には貴族の子女が選ばれていました。

※^{とうがく}万歳楽：^{ひょうじょう}唐楽、平調の中曲です。中国皇帝の万歳を鳴く鳥の声を音楽にしたものとされます。天皇の世を寿ぐ曲として、明治天皇の即位大饗の時から舞われるようになりました。舞人は 4 人で、^{かさね}襲装束の右肩を脱いで舞います。対になる番舞は^{えんぎらく}延喜楽です。

※王の舞：現在、福井県若狭地方などに多く伝わる舞曲で、魔除けの意味があるものとされます。鼻高の面を付け、鉾を持っています。かぶりものは鳥兜や鳳凰の冠です。この出で立ちが猿田彦大神と、また天狗とも共通します。

さらに、鼻高の面の姿から、奈良時代に大陸から伝わった舞・伎楽の治道ぎがく ちどうに由来するものとされます。伎楽は雅楽の祖形ともいわれます。

※**散手**：唐楽、太食調たいしきちようの中曲です。散手破陣楽ともされます。その由来は釈迦誕生と関連するとも、神功皇后の戦を助けた大和率川明神いさがわの姿ともいわれます。龍のかぶとに毛縁の裱襦きとく（前掛）を着し、鉾を持ちます。ただし、面の鼻は必ずしも大きく強調されているわけではありません。番舞は貴徳きとくです。

※舞楽の曲数は、鎌倉時代後期の史料によれば、当時約 120 曲あったとされています（『続教訓抄』）。江戸時代初期の史料には、約 110 曲把握されている楽曲のうち、絶えたものが 40 曲以上あるとするものがあります（『楽家録』）。曲のみ、あるいは舞も曲も伝わらない楽曲は少なくありません。なお、明治時代、宮中の儀式で演じられた楽曲は、初期は 20 曲に絞られていましたが、後に 60 曲前後まで増えています。

○舞楽の分類

舞楽の楽曲にはいくつかの分類方法がありますが、そのひとつとして、左方さほう（唐楽）、右方うほう（高麗楽が原則）、その他くにぶり うたまい（国風の歌舞など）、という、由来に留意したものがあります。これらは左方・右方の弁別は便宜的なものではなく、調子、楽器の編成、装束などに、その差異を見出すことができます。これらと別分類の国風の歌舞としては、大嘗祭で演じられる五節舞や、天皇からの使者が赴く神社祭祀でおこなわれる東遊あづまあそびなど、神道祭祀に関係の深い楽曲があります。

◆展示品

舞楽図巻 卷子本 2軸 絹本着色 制作年代未詳 國學院大學神道文化学部

舞楽演舞の様子が楽曲ごとに描かれています。左右対となるものはおおむね連続して描かれており、番舞の様子を想像することができます。構図や舞人の姿勢が類似する絵巻は、他にもいくらか確認することができます。

□参考

※以下は、『舞楽図巻』に舞人が描かれている楽曲です（表記は原文通り、仮名は便宜）。

国風の歌舞…東遊あづまあそび

左方舞楽…振杵えんぶ・一曲いつきよく・万歳楽まんざいらく・皇帝破陣楽こうていほじんらく・団乱旋とらでん・賀殿かてん・
安摩あま・春鶯囀しゅんのうでん・秦王破陣楽しんのうほじんらく・迦陵頻かりょうびん・採桑老さいそうろう・武昌楽ぶしょうらく・
青海波せいがいば・還城楽げんじょうらく・蘇合香そごう・万秋楽まんじゅうらく・打球楽だきゅうらく・胡飲酒こんじゆ・拔頭ぼとう・
喜春楽きしゅんらく・甘州かんしゅう・春庭楽しゅんでいらく・北庭楽ほくていらく・散手破陣楽さんじゅほじんらく・感城楽かんぜいらく・
倍臚ばいろ・羅陵王らりょうおう

右方舞楽…振杵えんぶ・一曲いつきよく・延喜楽えんぎらく・新鳥蘇しんとりそ・古鳥蘇ことりそ・長保楽ちようほうらく・
二舞にのまい・蘇利古そりこ・進宿徳しんしゆく・皇仁庭おうにんてい・胡蝶楽こちょうらく・新靺鞨しんまか・狛杵こまぼこ・
敷手しきて・胡徳楽ことくらく・退宿徳たいしゆく・地久ちきゅう・埴破はんなり・林歌りんが・崑崙八仙くわんろんはっせん・
白浜ほうひん・登天楽とうてんらく・貴徳侯きとくこう・綾切あやぎり・蘇志摩利そしまり・納蘇利なそり



『舞楽図巻』

※左方・右方一対で演じられる楽曲は、「番舞」ということがあります。**万歳楽**（左方）と**延喜楽**（右方）、**迦陵頻**と**胡蝶楽**、**羅陵王**と**納蘇利**、などはその典型です。東遊を左方舞楽として組み込み、右方の蘇利古がその番舞となる例も、江戸時代にはありました。

※舞楽の分類としては、六調子いちこつちよう ひようじよう（壹越調・平調）太食調たいしきちよう・双調そうじよう・黄鐘調おうしきちよう・盤渉調ばんしきちよう）で分ける方法や、規模や格式、曲風たいきよく ちゆうきよく しょうきよく（大曲・中曲・小曲）で分ける方法もあります。

○舞楽装束

舞楽の装束は、その伝来にかかわらず有職故実ゆうしやくこじつに基づいています。雅楽の演奏は、朝廷の儀式としても位置づけられていたためか、中世以降の貴族が公に着していた装束と、仕立て上の共通点は少なくありません。しかしながら、舞楽の装束は一定の芸術性を有しており、華麗な色遣いや装飾が施されています。楽曲独自の装束を用いることも多くあります。顔に付ける面も、用いられる楽曲ごとに作られているため多彩です。

◆展示品

襦装束かきね 左方 1具 現代 國學院大學神道文化学部 (4/2より袍・半臂・下襲・鳥兜各1点)

右方 袍・半臂・下襲・鳥兜 各1点 現代 國學院大學神道文化学部 (3/31まで)

使用される曲数の多さから、常装束つねのとも呼ばれます。朝廷に仕える武官の正装・束帯から発展したもので、左方が赤、右方が青を基調色とします。曲によって一番上ほうに着る袍を肩ぬぎしたり、着さなかったりします。

蛮装束ばんえ 左方 袍 1領 現代 國學院大學神道文化学部 (3/31まで)

右方 1具 現代 國學院大學神道文化学部

もとは朝廷近衛府このえふの高官警護ずいじんに当たった随身の晴れの装束です。蛮装とは袍の文様のことで、元来墨刷りでしたが、近世の舞楽装束は刺繍で作られるようになります。文様は、獅子や熊が題材となっています。

襦装束りょうとう 左方(蘭陵王)・右方(納曾利) 各1具 現代 國學院大學神道文化学部 (4/2より)

襦装とは一番上の着衣のことです。元来は「両当」で、体の前後両面に当たることから名がついたものと見られます。舞楽の襦装は中央アジア由来の服の系譜を引くものとされ、縁に糸が連なります。動作の活発な走物の楽曲で着用されます。金色の面の方が中国の戦の故事に基づく蘭陵王(左方)、青い面の方が遊ぶ龍を模した納曾利(右方)のものです。

□参考

※**蘭陵王**：唐楽、壹越調の中曲です。羅陵王・陵王ともされます。林邑楽りんゆう、すなわちベトナム由来の楽曲と位置付けられます。走物はしりものと呼ばれる、動きが伴う軽快な舞で、かつ、金色の面を付け、手には金色のぼちを持ち、赤を基調とした襦装束を着して華麗軽快に舞うことから、古代から現在に至るまで各地で演じられてきました。主題は中国南北朝末期・北齊ほくせいの王の戦勝故事に因みます。金色の仮面は、王の美顔をあらわにして味方の士気を下げないようにするためにつけていたとのこと。番舞は**納曾利**です。

※**納曾利**：高麗楽、壹越調の小曲です。納蘇利・双龍舞ともされます。複数の舞人で舞うこともあり、舞う人の数により落蹲らくそんと呼ぶこともあります。新楽と呼ばれ、奈良時代の時点で比較的新しい曲として認識されていたものです。青の顔に銀の眼をした面を付け、青を基調とする襦装束を着し、銀色のぼちを持ち、龍が遊ぶように舞います。番舞は**蘭陵王**で、これらは平安時代の時点で、相撲や競馬などの朝廷の儀式において、ともに舞われていたことが記録に残っています。



襦装束 (蘭陵王)



襦装束 (納曾利)

○舞楽で用いられる楽器

舞楽の奏楽は現在、管楽器と打楽器を用いてなされます。構成される楽器は舞楽の種類によって異なりますが、例として、唐楽は笙・篳篥・龍笛（横笛）という管楽器（三管と総称）と、鞆鼓・太鼓・鉦鼓という名の打楽器（三鼓）を用います。高麗楽は、唐楽と楽器が一部相違し、管楽器は高麗笛・篳篥、打楽器は三ノ鼓・鉦鼓・太鼓によりおこないます。なお、舞を伴わず、奏楽のみの雅楽を管絃といいますが、これにはその名の通り、絃楽器の琵琶や箏を用いる曲目があります。

◆展示品

笙 1管 現代 國學院大學神道文化学部

17本の竹を用いた管楽器です。篳篥と横笛が旋律を担うのに対し、笙は和音のみを奏します。一定の温度に高めないと音が出ないため、季節を問わず火鉢を常備します。高麗楽では使いません。

篳篥 1管 現代 國學院大學神道文化学部

竹でできた管楽器です。強く響くため、雅楽では主旋律を担う位置づけにあります。前面に7つ、背面に2つ穴があります。口に加える、いわゆるリードの部分は蘆舌と呼ばれ、葦からできていますが、この加工には大変手間がかかります。

龍笛 1管 現代 國學院大學神道文化学部

横笛ともいいます。雅楽に用いる管楽器の中では音域が広く、篳篥とともに単旋律です。雅楽ではこの他の横笛として、高麗楽や東游で用いる高麗笛や、神楽歌用の神楽笛が用いられますが、これらは長さや指の穴の数が、龍笛と相違します。龍笛は7穴・約36センチメートルあります。

鞆鼓 1面 現代 國學院大學神道文化学部

唐楽や管絃で用いる打楽器です。皮の面を体に対して垂直にし、ばちを両手に持って打ちます。これによって曲全体の速度調整をおこなうことが多くあります。

太鼓 1面 現代 國學院大學神道文化学部

唐楽でも高麗楽でも用いられます。雅楽の太鼓としては、大太鼓・鈞太鼓・荷太鼓があります。丸い枠を作り、その中に太鼓を据え付けます。皮を体に水平に向け、2本のばちで片面のみを打ちます。

鉦鼓 1面 現代 國學院大學神道文化学部

太鼓同様、唐楽・高麗楽ともに用いられます。舞楽の打楽器で、金属でできた唯一のものです。皮を体に水平に向け、2本のばちで凹んだ面を打ちます。

三ノ鼓 1面 現代 國學院大學神道文化学部

高麗楽で、太鼓・鉦鼓とあわせて用いられる打楽器です。演奏する時に胴を手を持つことや、ばちは1本である点など、唐楽で三管を構成する鞆鼓とは大きな違いがあります。



笙・篳篥・龍笛



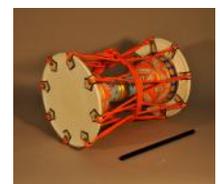
鞆鼓



太鼓



鉦鼓



三ノ鼓

○現代の舞楽

現代でも、舞楽に接する機会はいくらかあります。宮中では宮内庁の式部職に^{がくぶ}楽部が置かれ、舞楽発展の主要な拠点となっています。楽部は宮中行事での奉仕とともに、一般向けの演奏会もおこなっています。毎年恒例の神社祭礼や寺院法会の中にも、多数の楽曲からなる舞楽が伴う例が今なおあります。國學院大學でも、神道と密接な芸能として舞楽を重んじています。雅楽関連科目のある神道文化学部の教員・学生などが中心となって毎年秋に催す観月祭では、学生有志による舞楽が演じられ、学内外に公開されています。

□参考

※宮内庁の楽部は、平安時代中期に編成された朝廷の官衙・楽所の流れを受けており、これと奈良興福寺・大坂四天王寺の楽所、さらにはそれらの出先であった江戸紅葉山の楽所を統合する形で、明治3（1870）年に再編成された太政官雅楽局がもととなっています。

※國學院大學の観月祭は旧暦9月13日（十三夜）の前後におこなわれます。平成22（2010）年からはじまり、同年は^{ごしょうらく}五常楽・^{とんてんらく}登天楽のほか、神楽舞（^{とよさかまい}豊栄舞・^{うらやす}浦安の舞）が、翌平成23（2011）年には、^{しゅこし}酒胡子・^{ぶとくらく}武徳楽・^{こくけん}胡飲酒・^{しんせん}振銚・^{ばんざいらく}万歳楽・^{にんちやうのまい}人長舞のほか、浦安の舞・豊栄舞が演じられました。平成24（2012）年は10月20日（土）に開催予定です。



平成23（2011）年度國學院大學観月祭・万歳楽

▽本解説において写真で紹介した資料等は、いずれも國學院大學神道文化学部のものです。